

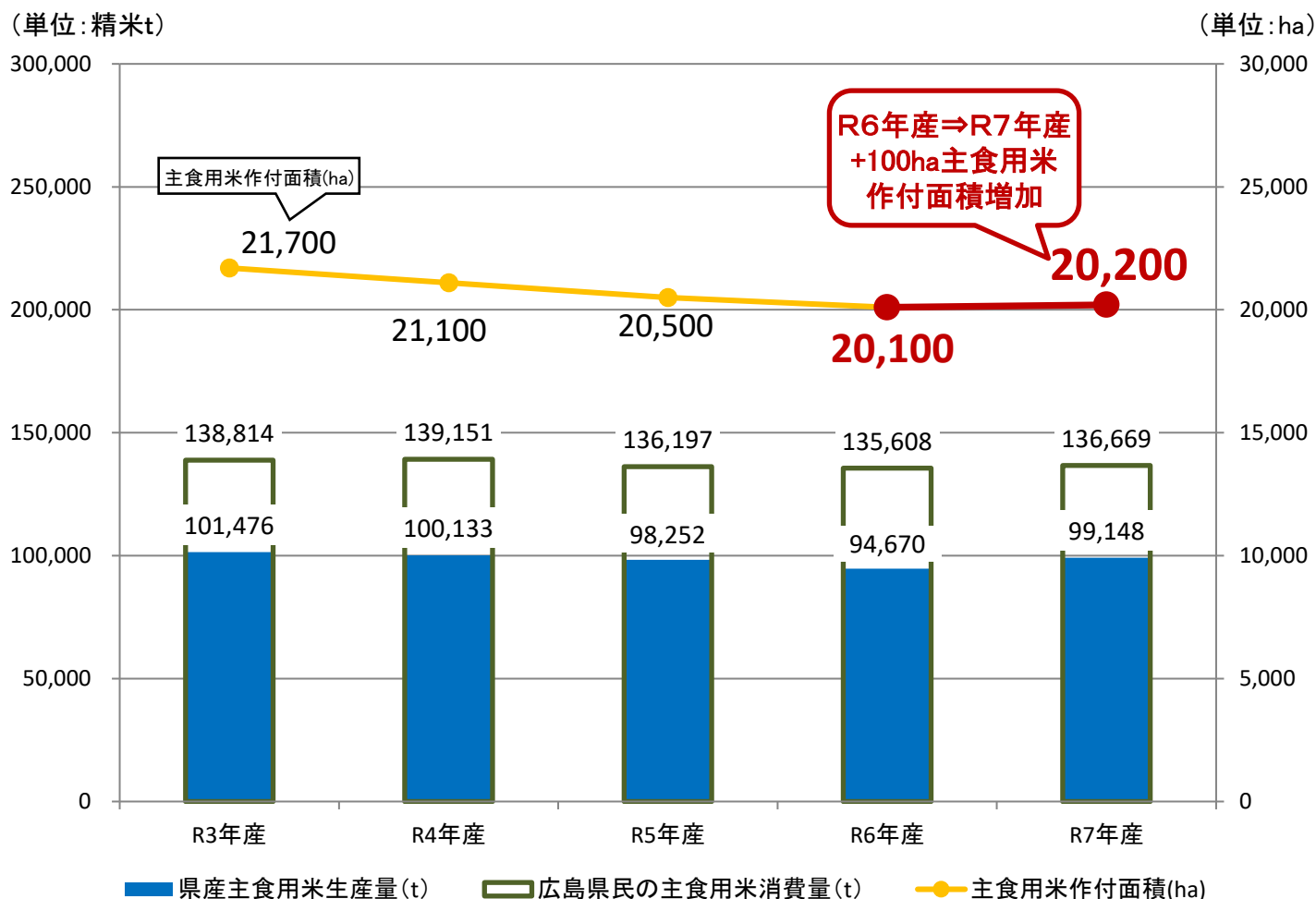
# 広島県主食用米・非主食用米の生産及び需要動向 (令和7年11月26日現在)

広島県農業再生協議会では、平成30年産からの米政策見直し後も、需要に応じた生産を行うための取組のひとつとして、広島県内の水稻の生産状況や令和8年産の需要動向をまとめています。

○県内の主食用米作付面積は年々減少していましたが、令和7年産は令和6年産に対して100ha増加し、20,200haとなっています。

○県産米の生産量は県民の米の消費量を下回った状況が続いており、令和7年産は作付面積や単収の増加により生産量が増加したものの、令和のコメ騒動により、価格上昇に伴う県産米の県外への流出、比較的安価な県外産米及び外国産米の流入が増加しています。

## 作付面積の年次別推移と県民の主食用米消費量及び県産主食用米生産量



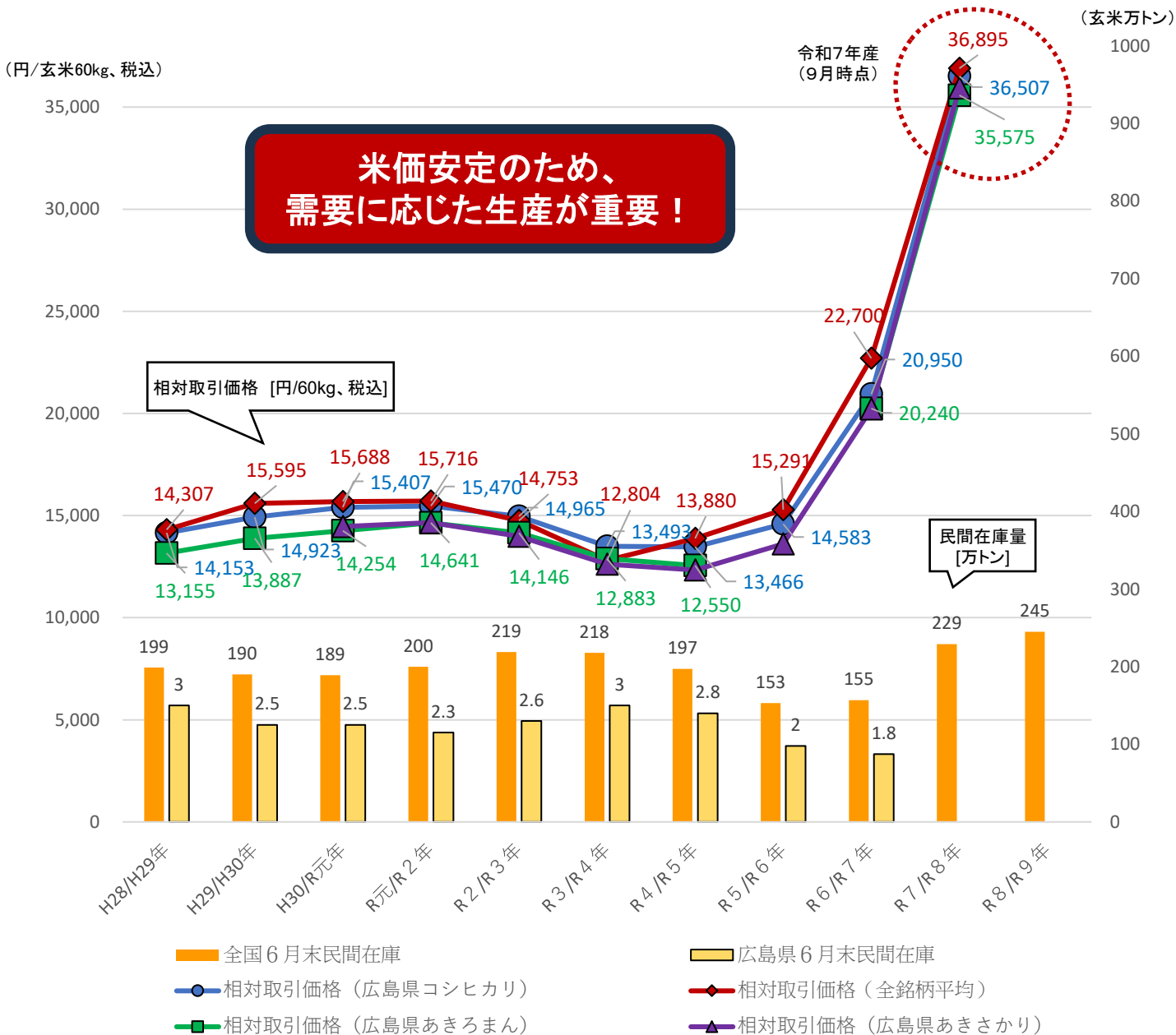
出典 主食用米作付面積: 農林水産省作物統計調査

県民の主食用米消費量: 農林水産省公表の1人当たりの精米消費量に広島県公表の広島県推計人口を乗じて算出(推計値)

県産主食用米生産量: 農林水産省作物統計調査に精米歩留まり5年平均値を乗じて算出(推計値)

# 年産別相対取引価格と民間在庫の推移

- 令和7年産(9月時点)の価格については、全国的な上昇を引き継いで取引が始まっており、全銘柄平均及び広島県産米相対取引価格(円/60kg)が前年比で約1万4千円高くなっています。
- 令和7年6月末の民間在庫量は、前年産と比較して全国で約2万t増加し155万t、県内では約2千t減少し1.8万tとなりました。**令和8年6月末民間在庫量及び令和9年6月末民間在庫量は、それぞれ最大で229万t、245万tの見込みであり、適正在庫量の180万トン～200万トンを超す可能性が高くなっています。**
- 令和8年産の主食用米については、米価安定のため、需要に応じた生産が求められています。**



出典：農林水産省「米の相対取引価格(通年平均)」 「米穀の需給及び価格の安定に関する基本指針」

※価格は出荷業者と卸売業者等との間で数量と価格が決定された主食用の相対取引契約の価格(運賃・包装代・消費税を含む1等米価格)の加重平均したものの。ただし、広島県の各銘柄の価格には全農契約分の運賃は含まれていない。

# 米の銘柄(品種)別検査数量の年次推移と令和8年産主食用米需要動向

○令和8年産主食用米の需要動向は、業者の在庫状況や品種により異なりますが、広島県産米においては、家庭用及び業務用ともに需要の増加が見込まれます。**令和8年産の生産計画を立てる場合には、販売先の品種ごとのニーズを把握することが重要になっています。**

品種名	検査数量(t)					令和8年産		栽培適地
	令和2年産	令和3年産	令和4年産	令和5年産	令和6年産	トレンド	需要動向	
コシヒカリ	22,849	22,992	22,637	21,704	19,348	↗	全国銘柄として主に家庭用の需要がある。需要増加を見込む。	標高550m以下
恋の予感	1,283	1,848	1,554	1,698	1,261	↗	地域性のある品種として主に家庭用需要の増加を見込む。	県南部 (標高150m以下)
あきろまん	3,773	4,549	4,146	3,487	3,281	↗	広島県独自銘柄として知名度があり、需要が定着している。主に家庭用需要の増が見込まれる。	県中北部 (標高150～350m)
ひとめぼれ	2,895	2,856	2,407	2,809	2,303	↗	全国銘柄として家庭用・業務用ともに需要はある。需要は微増を見込む。	県北部・高冷地 (標高300～550m)
あきさかり	11,403	11,784	10,609	9,818	9,186	↗	家庭用・業務用ともに需要はある。	県中北部 (標高150～500m)
あきたこまち	1,581	1,687	1,547	1,363	1,249	⇒	全国銘柄として家庭用・業務用ともに需要がある。需要は横ばいを見込む。	県北部・高冷地 (標高400m以上)
ヒノヒカリ	983	1,706	1,905	1,477	1,000	↘	全国銘柄として一定の需要はあるものの、高温障害による品質低下や作付減少による需要減少を見込む。	県南部 (標高200m以下)

出典：令和2年産～令和6年産検査数量：農林水産省『米穀の農産物検査』（令和6年産は、令和7年3月31日現在の速報値）

令和8年産需要動向：県内米取扱事業者への調査を参考に作成（令和7年10月県再生協調べ）

令和8年産トレンド ↗・・・調査対象者の令和7年産対比需要量・需要動向から需要増が想定される。

↘・・・調査対象者の令和7年産対比需要量・需要動向から需要減が想定される。

⇒・・・調査対象者の令和7年産対比需要量・需要動向からR7年産並みの需要が想定される。

令和8年産は県内の主要な主食用米取扱事業者（4社）への調査を基に現時点の大まかな傾向を掲載しています。営農計画を作成する際は取引先等に必要な銘柄・需要量をご相談ください。

# 広島県産非主食用米の生産量推移と令和8年産需要動向

○令和8年産非主食用米の需要動向は、需要の増加が見込まれます。令和8年産の生産計画を立てる場合には、販売先のニーズを把握しつつ主食用米とのバランスを図ることが重要になっています。

用途	生産量(t) (WCS用稲:ha)					令和8年産	
	令和3年産	令和4年産	令和5年産	令和6年産	令和7年産	トレンド	需要動向
W C S 用 稲	585	614	708	740	638	↗	県内向け国産飼料の安定的な確保に向け、需要が想定される。
飼 料 用 米	2,272	2,780	2,373	1,905	604	↗	令和7年産供給量不足により県内養鶏業者を中心に数量増を求められている。
加 工 用 米	1,697	1,860	1,865	1,900	877	↗	令和7年産供給量不足により県内酒造会社を中心に数量増を求められている。
米 粉 用 米	659	690	520	502	356	↗	需要は増加が見込まれる。
計 (WCS除く)	4,628	5,330	4,758	4,307	1,837	↗	需要は増加が見込まれる。

出典：令和3年産～令和7年産生産量：農林水産省『加工用米の取組計画認定状況』『新規需要米の取組計画認定状況』（需給調整カウントとなる加工用米・新規需要米の取組として認定を受けた数量（面積））

令和8年産需要動向：県内非主食用米取扱事業者への調査を参考に作成（令和7年10月県再生協議会）

令和8年産トレンド ↗・・・調査対象者の令和7年産対比需要量・需要動向から需要増が想定される。

令和8年産は県域で非主食用米取扱のある事業者への調査を基に大まかな傾向を掲載しています。営農計画を作成する際は取引先等に必要な銘柄・需要量をご相談ください。

作成：広島県農業再生協議会（HP：<https://h-suiden.jp>）

＜問い合わせ先＞広島県（広島市中区基町10-52 農業生産課 電話082-513-3557）